学校マネジメントシート

学校名(三重県立稲生高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		学校・家庭・地域の連携のもと「社会に役立つ人材の育成」に取り組む学校 ～知・徳・体の調和がとれた教育実践をとおして～
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)【グラデュエーション・ポリシー】	・自分自身を見つめ直し、夢に向かって、何事にも精一杯挑戦し、成功も失敗も糧にできる生徒。 ・基本的な生活習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、命の大切さや他人を思いやる豊かな心を持ち、いじめのない社会づくりに貢献できる生徒。 ・部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加し、コミュニケーション力や課題解決力を高めることができる生徒。
	ありたい教職員の姿	・生徒の個性を尊重するカウンセリングの視点を持ち、「自分は大切にされている」と実感できる温かな雰囲気づくりと、粘り強い学習・生徒指導に取り組む教職員。 ・互いに協力し、対話を通して学校や生徒の課題を共有し、組織として解決に取り組むとともに、法令遵守を徹底する教職員。 ・常に自己の教育力を高めるために学び続け、意欲的に教育活動に取り組む教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求･期待		＜生徒＞ 安全・安心で快適な学習環境における、基礎学力の定着と希望進路の実現。学校行事や部活動の充実。 ＜保護者＞ わかりやすい授業による学力の向上と希望進路の実現。自己教育力と規範意識の醸成。部活動の活性化。 ＜地域社会＞ 生徒の公共心やマナーが育成され学校への信頼度が高まる。地域活動へ積極的に取り組める生徒の育成。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望･期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		＜保護者＞ 生徒や学校の適切な情報提供 ＜中学校＞ コース制や体育科での専門的な学習の理解。卒業生や学校の情報提供。 ＜地域社会＞ 開かれた学校。地域活動への参加と協力。地域に貢献できる人材の育成	＜保護者＞ 本校教育活動への理解と参画。親と子のコミュニケーション。 ＜中学校＞ 効果的な指導のための情報共有と緊密な連携。 ＜地域社会＞ 本校教育活動への理解と協力(工業・介護実習、清掃活動、部活動)
(3)前年度の学校関係者評価など		・地域行事への参加に加え、小学校への出前授業など、活動の幅を広げていくことが期待されている。 ・地域との交流実績や活動の様子を、校内掲示や広報を通して生徒へ積極的に発信し、共有を図る必要がある。 ・来客者に対して生徒が自ら進んで挨拶できている現状を高く評価されており、今後もこの良き伝統を継続してほしい	
(4)現状と課題	教育活動	・生徒の基本的な生活習慣や学習習慣を確立するため、家庭と連携を進めていくとともに、授業の改善に努め、組織的に教育活動に取り組んでいく必要がある。 ・人権教育や道徳教育等を充実させることで、人権を尊重する態度を育み、生徒が安心した学校生活を送ることができるよう取り組んでいく必要がある。	
	学校運営等	・地域と連携する活動においては、学校側も要望や提案を積極的に行い、地域貢献を図るとともに、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、充実した活動となるように取り組んでいく必要がある。 ・総勤務時間の縮減に向け、業務内容や分担を適正化し、教職員が心身ともにゆとりを持って生徒に向き合える、効果的な業務執行体制を構築する。 ・生徒数減少を見据え、魅力的な学びの選択肢を維持・充実させていく必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・体育科では、高度な競技技術の習得に加え、スポーツを通じた円滑なコミュニケーション能力や、多様なスポーツへの関わり方を学ぶ専門科目を展開し、社会で活躍できる人材を育成する。 ・普通科では、生徒の進路希望に対応した「６つの専門コース」を設置し、各分野の専門性を高める学習内容を充実させるとともに、協働的な学びを通じて「コミュニケーション力」や「課題解決力」を育み、主体的に自ら成長する力を養う。 ・「自分は大切にされている」と実感できる温かな環境のもと、自己肯定感・自己有用感を高める活動を通じ、自らの将来を切り拓く力を養う。 ・すべての教育活動を通じ、正しい倫理観や人権感覚を養う道徳教育を推進し、他者への思いやりといじめを許さない心、命を大切にする実行力を育む。・生徒一人ひとりの能力・適性に応じたＩＣＴ活用や授業内容の工夫、公開授業・授業研究を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を推進する。
学校運営等	・教職員が、意欲的に業務に取り組み、やりがい感・満足度を高めるため、会議の効率化・休暇の取得・部活動の効率化・定時退校日の設定などに取り組み、総勤務時間の縮減を図る。 ・教職員、保護者、地域との情報及び課題の共有化並びにコンプライアンスマインドの醸成をはかり、信頼される学校づくりに取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿【アドミッション・ポリシー】	＜体育科・普通科共通＞ ・明確な進路希望を持ち、成功・失敗に関わらず前向きに主体的に学ぶ意欲のある生徒。 ・基本的な生活習慣と規範意識を身につけている生徒。 ・他者を尊重し、円滑なコミュニケーションを図れる生徒。 ＜体育科＞ ・スポーツに優れた実績を持ち、専門性を高め、競技力向上に継続して取り組む意志のある生徒。 ・スポーツへの強い興味・関心があり、体育科の学習や部活動に意欲的に取り組める生徒。 ＜普通科＞ ・コース制を理解し、意欲的に学習活動に取り組める生徒。 ・資格取得、スポーツ（部活動やクラブチームでの活動）、文化活動や生徒会活動等に積極的に取り組み、入学後も意欲的に取り組める生徒。

5 本年度の行動計画と評価

（1）教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】 「※」： 定期的に進捗を管理する取組「◎」： 最重点取組

項目	取組内容･指標	結果	備考
学習指導の充実	学ぶことの興味関心が高まる取組 【活動指標】 ・基礎学力診断テストの実施（４月・９月実施）と結果分析に基づく指導。 ・学年に応じた重点取組の実施（１年：基礎学力向上トレーニング、２年：朝読・漢字演習、３年：就職・進路に向けた強化対策）。 ・授業満足度調査（生徒）を実施（年２回） 【成果指標】 ・生徒の授業満足度 90%以上	年度末に適宜記載	◎

キャリア教育の充実と進路実現	多様な学びを通じた勤労観・職業観の育成と定着率の向上を目指した進路指導 【活動指標】 ・インターンシップ参加率：100%（全２年生） ・自動車工業コース、による企業実習参加率：100% ・大学・専門学校等との連携授業実施回数：３回以上（食物調理コース・介護福祉コース） ・進路ガイダンス、個別面談の実施（１，２年生は年間３回以上、３年生は年間５回以上） ・県内就職先および求人企業等への訪問・連携（年間 40 社以上） ・就職１年目の卒業生への定着状況確認（年２回実施） 【成果指標】 ・実習・連携授業に対する生徒の満足度 90%以上 ・希望進路実現 100% ・就職１年目の卒業生定着率の向上（令和７年度比増）	年度末に適宜記載	
体育科の活性化	体育科生徒による、市内小中学生を対象とした指導実習・学校行事運営への参画 【活動指標】 ・小中学校訪問の実施：５校以上 ・オープンスクール、体育祭の企画・運営への参画 ・専門学校・大学との連携授業の実施：年３回以上 【成果指標】 ・体育科生徒の満足度 90%以上 ・訪問先（小中学校）からの満足度 90%以上 ・体育・スポーツ系含む四年制大学、専門学校への進学率の向上（令和７年度比増）	年度末に適宜記載	
資格取得の促進	各種検定や資格の取得に向けた取組 【活動指標】 ・関連授業での指導に加え、検定・資格取得に向けた放課後補習や外部講師を招いた実技講習会の開催（各分野１回以上） 【成果指標】 ビジネス文書、情報処理（２級各５名以上） JSBA バッジテスト３級 スノーボード（合格 80%） JFA 公認キッズリーダー（100%） サッカー３級審判免許（100%） 普通救命講習修了証（100%） 漢字検定（３級合格 50%） 英語検定（50%）、ニュース検定３級 食物調理技術検定（準１級 100%・２級３級 100%） 介護職員初任者研修課程の修了（90%） ガス溶接技能講習合格（100%） アーク溶接技能講習合格（100%） 危険物乙種四類（50%）	年度末に適宜記載	
基本的生活習慣や規範意識の醸成	全校集会、学年集会での訓話等による基本的生活習慣や規範意識の醸成 【活動指標】 ・各学期２回以上の全体指導及び頭髪服装指導の実施 ・いじめ防止の取組 〇現職教育の実施、ピンクシャツ運動（月１回）、いじめアンケート（各学期１回）、いじめ防止動画作製 ・交通安全指導等の取組 〇自転車ヘルメット着用努力義務の推進（意識向上） 〇盗難防止（ツーロックの推進年２回） 〇校外登下校指導（月４回） ・生徒会による様々な強化月間の実施（隔月１回）	年度末に適宜記載	◎

	【成果指標】 ・学校遅刻 10%減（令和７年度比） ・特別指導件数 10%減（令和７年度比） ・生徒満足度調査（２・３年生）において、「挨拶やマナーなど基本的生活習慣の確立に向けた指導が行われている」との肯定的回答 95%以上		
人権意識の育成	人権を尊重する意欲・態度と正しい道徳観の育成 【活動指標】 ・「人権デー」を年１日設定し、全教員による人権公開授業および外部講師による人権講演会を実施する。 ・SNS 講話、性教育、防災講話、献血セミナー、教職員救命講習を実施する。（各年１回・計５回） ・「自分には良いところがある（自己肯定感）」に関するアンケートを年１回実施する。 【成果指標】 ・自己肯定感に関する結果を全職員が把握（100%）し、次年度からの向上に繋げる。	年度末に適宜記載	
部活動の活性化	運動部、文化部活動の奨励 【活動指標】 ・適切な練習計画の策定と、効率的・効果的な部活動運営の実施 ・外部指導者や部活動指導員等の活用による指導体制の充実 【成果指標】 ・全国・東海大会出場者、県内大会入賞者 増（令和７年度比） ・生徒満足度調査（２．３年生）において、「部活動が活発に行われている」との肯定的回答の向上（令和７年度比）	年度末に適宜記載	
改善課題			
年度末に適宜記載			

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 「◎」： 最重点取組

項目	取組内容･指標	結果	備考
学校の魅力化	体育科の充実と、地域社会に貢献できる人材育成を目指した普通科の特色あるカリキュラム 【活動指標】 ・オープンスクール（年１回）および外部説明会等での魅力発信 ・本校の特色ある教育活動の周知に向けた、近隣中学校等への広報・意見交換（年間 30 校以上） ・体育科による小中学校訪問の実施 ： ５校以上 ・地域ボランティア活動への組織的な参加・協力（年間３回以上）。 【成果指標】 ・生徒満足度調査（２・３年生）において、「地域に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる」との肯定的回答 90%以上 ・オープンスクールの参加者満足度 90%以上 ・体育科および普通科の志願倍率の維持・向上（令和７年度比）	年度末に適宜記載	

授業力の向上及び資質向上	授業公開による授業改善、校内研修の実施 【活動指標】 ・授業公開、教員相互の授業見学を年間２回実施 ・ＩＣＴを活用した授業の実践と効果的な指導の共有 ・教科横断的な視点を取り入れるなど、創意工夫を凝らした授業の展開 【成果指標】 ・生徒満足度調査（２・３年生）において、「先生はＩＣＴを取り入れた授業を実施している」との肯定的回答 95%以上 ・授業満足度 90%以上	年度末に適宜記載	
情報発信による地域､保護者との連携促進	学校ホームページやＳＮＳ、すぐーるの活用による情報発信、地域活動との連携 【活動指標】 ・校内外の活動を随時、迅速に発信 ・ボランテイアや地域活動に参加、協力 ・ホームページ更新　随時 【成果指標】 ・SNS の閲覧者数増（令和７年度比）	年度末に適宜記載	
総勤務時間の縮減	教職員が心身ともにゆとりを持って生徒に向き合える、効果的な業務執行体制の構築 【活動指標】 ・定時退校日（月２回および週１回の個人設定）の遵守徹底 ・部活動休養日の確実な実施と外部人材の積極的活用・会議の効率化（60 分以内、ペーパーレス化）および校務の ICT 化の推進 【成果指標】 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間 25 時間以下（昨年度 16.6h の維持・向上） ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数　０名 ・年 360 時間を超える時間外労働者の人数　０名 ・1 人当たりの年間休暇取得日数増(令和７年度比)	年度末に適宜記載	◎
経費の効率的な活用	学校運営費の節減取組 【活動指標】 ・居室退室時のチェック徹底 ・経費節減について企画委員会等で意見交換 【成果指標】 ・電気使用料　３%削減（令和７年度比） ・水道使用量　１%削減（令和７年度比）	年度末に適宜記載	
改善課題			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	年度末に適宜記載

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	年度末に適宜記載
学校運営についての改善策	年度末に適宜記載